

## 中国湖北省における土家族の婚姻習俗 ——唐崖寺村の事例を中心に——

龔 卿民

### The Marriage Custom of Tujia Ethnic Group in Hubei, China: A case of Tangyasi village

GONG, Qingmin

#### Abstract

The article is about the change in the marriage custom of Tujia ethnic group in Hubei, China, and examines how the marriage custom changed by dividing post-founding period of China into two parts, and also discusses about the causes and problems of the change.

One of the factors for the change in Tujia's marriage custom lies that they have long been living together with the Han people and has been influenced by Han culture. Another factor is the influence by the social change brought by economic and political development since the "Reform and opening-up" period of China.

To look at the change in Tujia's marriage custom, in the early period of founding China, national government enacted a new marriage law and proposed a free marriage based on the equality of the sexes, but Tujia's traditional marriage custom had remained because of their peripheral location and their cultural distinctiveness which was made of a lot of complicated rituals. At the time of the Great Cultural Revolution, the cultural customs of ethnic minority groups were mostly abolished as "Four Olds", and a nationwide frugality and the development of socialism were also encouraged, and thus the marriage custom and ritual of Tujia were simplified.

The period of "Reform and opening-up" saw the approval of the cultural customs of ethnic minority groups under the circumstances of the changing political environment and the marked economic development, and thus Tujia's marriage custom has been revived and regarded important. On the other hand, Tujia's marriage custom has been influenced by various factors such as urbanization and tourism.

**Keywords :** Tujia ethnic group in Hubei, Tangyasi village, marriage custom, change

#### 要旨

本論は、中国湖北省の土家族の婚姻習俗の変容に関するもので、建国後の中国を2つの時代に区分し、それぞれの時期に土家族の伝統的婚姻習俗がどのような変容を遂げてきたか、またその要因と問題点について考察するものである。

湖北省の土家族の婚姻習俗が変容してきた1つの要因として考えられるのは、土家族が長期にわたり漢族と共に生活する中で漢族の文化の影響を強く受けてきたことである。もう1つの要因としては、「改革開放」以降の中国の経済的、政治的發展がもたらした社会変化による影響である。

湖北省土家族の婚姻習俗の歴史的変遷を見ていくと、中国建国初期は、国家が婚姻法を実施し、男女平等の自由婚姻を提唱したが、民国また清朝時代の漢族封建社会の文化習俗が多く残存してい

たうえに、湖北省土家族地域が中央政府所在地から遠く離れていたため、その地域の統治も完全ではなかった。そのため、その時期の婚姻习俗の構成要素が多く、儀礼も複雑であった。その後、国家は文化の大改革を全国規模で展開し、土家族のような少数民族の文化习俗は「四旧」として修正また廃止され、また、全国規模で節約を励行し、社会主義社会の発展をうたったので、土家族の婚姻习俗や儀礼も簡略化されていった。

「改革開放」の時代になると、政治的環境が緩和され、経済も著しく発展するなかで、少数民族の文化习俗が認可されるようになり、土家族の婚姻习俗も復活し、かつての婚姻儀礼が重視されるようになる一方、都市化や観光化など多方面の影響を受けるようになった。

キーワード：湖北省土家族、唐崖寺村、婚姻习俗、変容

## I. はじめに

### 1.1 研究の背景と目的

中国の少数民族のうちの1つである土家族（トウチャ）は、人口835万<sup>1</sup>で、「民族識別」<sup>2</sup>政策によって、1956年10月に単一の民族として認可された<sup>3</sup>。その大多数は中国の湖北省、湖南省、貴州省と重慶市に住んでおり、これらの地域には、2つの土家族苗族自治州、4つの土家族自治県、4つの土家族苗族自治县が存在し、土家族の村は合計50存在する。

本稿の調査対象地である湖北省には53の少数民族があり、少数民族の人口は283万人で、同省の総人口の4.68%であり、その中で土家族は217.7万人と、少数民族としての人口は一番多い<sup>4</sup>。また、湖北省の土家族は、主に省内の西南部の恩施土家族苗族自治州（以下、恩施州と略称）に分布している。恩施州の唐崖寺村の土家族を研究対象として選んだ理由は、筆者自身が湖北省恩施州の土家族出身であるため、現地の事情や現地語に精通していることや、近年、恩施州の都市化と観光化が進んでいるため、土家族の従来の婚姻习俗については、農村部の方が調査対象者や調査資料が都市部より多いことによる。

本稿は、筆者が2014年と2015年に湖北省恩施州土家族で行った婚姻习俗に関する調査で得られた資料に基づくもので、湖北省土家族の婚姻习俗の変容の一面を記述し、その背景にある諸要因を明らかにする。

具体的には、第Ⅱ章で、先行研究に基づいて土家族の婚姻习俗一般について分類と整理を行い、第Ⅲ章では、事例研究により湖北省唐崖寺村の土家族の間で実際に行なわれている婚姻习俗とその変容について詳述する。そして第Ⅳ章で、湖北省農村部の土家族の社会変容と婚姻习俗の関係について考察する。婚姻习俗に関する研究は、土家族社会の一面を知る上で最も重要なトピックの1つであり、また、漢族の文化が主流をなす中国社会において、少数民族土家族の文化を中国社会の中に正しく位置づけようとする本稿の試みは、中国の少数民族が全体とし

1 中国国家统计局のホームページ：<http://www.stats.gov.cn/tjsj/pcsj/> より（2016年8月26日参照）。

2 中国政府が1950年から始めた国家政策であり、各民族の身分の確認が目的である。1983年に55の少数民族と漢族を確認し、それ以降、中国に56の民族があることになっている。

3 土家族が1つの民族として認可された一番重要な理由は、独自の言語を持っているということであった。

4 湖北省政府のホームページ：<http://www.hubei.gov.cn> より（2016年8月26日参照）。

て置かれた現状や位置を押し量る上でも重要であると考える。

## 1.2 先行研究

土家族は長期にわたって漢族と一緒に居住してきたため、その文化や習俗は漢族からの影響を強く受けている。その理由について、『中国少数民族の信仰と習俗・下巻』によると、長期にわたり漢族と雑居してきたため、社会経済の発展レベルも漢族に近く、加えて両族間の各領域にわたる交流も無視できないと指摘する〔伊藤1993: 714-715〕。現在でも、多くの土家族地域では、漢族やその他の民族と土家族との混住が多く見られ、日常生活と文化習俗の面で、相互の交流による影響が色濃く見られる。

例えば、土家族の婚姻習俗についても、漢族からの影響は大きい。土家族の婚姻習俗研究の第一人者である劉孝瑜によれば、中国は歴史的に封建領主制経済と封建地主制経済という主導的な経済制度があり、土家族の婚姻習俗は漢族と同様に封建的婚姻制度の部分がありながら、土家族独自の特徴もある程度保持されているという〔劉1986: 81〕。すなわち、土家族の婚姻は本来、自由度が高かったが、清代の「改土帰流」<sup>5</sup>以降、封建領主経済が消滅し、一方で封建地主経済が徐々に拡大していくなかで、土家族の婚姻制度の封建化の度合いも強まっていった。その結果、配偶者選択における親の決定権や仲人の発言力が増し、また両者の社会的経済的バランスを重視するような婚姻のあり方が、土家族の男女の結婚や家庭、家族をより強く拘束するようになった。また、従来の父方交叉イトコを優先（「姑表優先」<sup>6</sup>）する結婚習俗も、「改土帰流」から1949年の中国建国期あたりまでは依然として流行っていたが、現在の土家族の婚姻制度は近親婚の禁止と男女の自由平等的な一夫一婦制となっている。しかしながら、各地域には土家族の従来の婚姻習俗、例えば、湖北省恩施州の「女兒会」<sup>7</sup>や、湖南省永順県の「同姓為婚」<sup>8</sup>などがまだ行われている〔劉1986: 81-84〕。

また、彭林緒〔1991〕は「改土帰流」以降、漢族が大量に土家族地域に流入するとともに土家族と漢族の通婚が多くなり、その結果、土家族の婚姻習俗にたいして下記のような影響が見られるという。すなわち、①同姓同士の婚姻の禁止。②「五服（父方の直接血縁関係者、父、父の父と曾祖父、父の子女と孫）」以内の関係者の結婚禁止。③父方交叉イトコ婚（「骨種婚」<sup>9</sup>）やレヴィレート婚（「転房婚」<sup>10</sup>）などの婚姻の禁止。④結婚式に花嫁の兄が花嫁を背負う習俗の禁止である。〔彭1991: 41-42〕

さらに、冉競華〔2014〕によれば、土家族の婚姻習俗は「改土帰流」以降、漢族の婚姻習俗から影響を受け、例えば「改土帰流」以前の土家族の結婚は自由恋愛で、地域の巫師による結

5 明清代に少数民族の世襲の土司を廃し、流官（中央からの役人）を派遣して支配するよう改めた政治的処置をいう。この改革は、地主経済の発展に有利にはたらいだ。嚴汝嫻主編1996『中国少数民族の婚姻と家族・上巻』第一書房、p.225に詳しい。

6 骨種婚とも呼ばれる。父方交叉イトコ婚であり、イトコの間でこの婚姻が優先した。

7 恩施土家族の恋愛イベント。本稿80ページで詳述している。

8 同姓の者同士の結婚。

9 注6を参照。

10 兄が亡くなると弟が兄の嫁を娶り、弟が亡くなると兄が弟の嫁を娶る「兄弟逆縁婚」にあたる。

婚証明があれば十分だったのに対し、「改土帰流」以降は、漢族の「六礼」<sup>11</sup>のような複雑な結婚儀礼が行われるようになり、また、漢族の祖先崇拜の影響を受け、婚姻習俗においても結婚前に祖先に結婚を知らせる「告祖」の儀礼が見られるようになったことを指摘する〔冉2014: 110-112〕。

また、中国建国以降土家族の婚姻習俗の変容とその理由について、柏貴喜〔2005〕は人口統計データと現地調査に基づいて、中国建国以降、土家族の通婚範囲が拡大し、婚姻率と離婚率が高くなり、自由恋愛による結婚が増え、結婚儀礼が簡略化してきたことなどを指摘している。また柏貴喜は土家族の婚姻習俗の変容の理由として、国家政策、異文化の影響、民族の自己変容などを挙げる〔柏2005: 89-94〕。

従来の研究は土家族の婚姻習俗の中の1つの習俗に焦点を当てたものが多い。例えば、尹旦萍〔2015〕は1980年代以降の土家族の女性の結婚相手について、その選択の自由度に関する分析を行った。即ち、「改革開放」以降2000年までで見ると、土家族の女性は、かつては親が結婚相手を決めたのに対し、自分で結婚相手を決めるケースが多くなったこと、また、以前は離婚や再婚が少なく、独身の女性はほとんど見られなかったが、2000年以降は自由恋愛による結婚が増え、離婚の際も女性から離婚になる現象が多くなり、再婚や独身者も多くなっている〔尹2015: 78-81〕。その変容の理由として、尹旦萍〔2015〕は、中国全体の都市化の展開とともに、土家族社会が女性の結婚に対して寛容になっている一方、土家族女性も自立志向が強まり、結婚に対する自由や愛情に対する追求が強くなっていることを挙げる。さらに、近年、農村部の若者の都市部への出稼ぎブームによって、農村部の男女比が大きくなり、土家族の男性が結婚相手を見つけることが難しくなっていると分析する〔尹2015: 81-82〕。また、尹旦萍〔2012〕は、土家族の婿入り婚は、「改土帰流」以降から1999年までは少なかったが、2000年以降から増加するという。その原因として、「改土帰流」以降1999年まで、土家族の結婚は主に宗族内の結婚が多く、たとえ女性が再婚の場合でも、その結婚相手は宗族内で決められたのに対し、2000年以降中国の生育政策により、男女比の差が開いたことと、男女平等の意識が一般化したことを指摘する〔尹2012: 72-76〕。その他、土家族の泣き嫁、即ち「哭嫁」に関する研究も多く〔余2004, 尹2010, 姚2010〕、土家族の結納品に関するもの〔尹2012〕、恋愛イベント「女兒会」に関するもの〔王2010〕、婚礼の一環の「交親」儀礼に関するもの〔申2015〕なども見られる。

また、山路勝彦〔2002〕は土家族の文化の複雑性、つまり土家族文化は地域差が大きいことを指摘し、その理由として次のように述べる。すなわち、「土家文化の起源は一つの同じ源流に遡るわけではないし、各地に居住する土家族が齊一的に自己の文化を維持してきたというわけでもない。このことは、土家族の文化を考える時、地域的変差が見られることと関連している」〔山路2002: 45〕。また、土家族社会に地域差が生じた原因として、山路勝彦は歴史的要因を指摘する。即ち、「土司制度の導入によって漢族の圧力が確立すると、漢族の流入がおびただしくなり、各地で漢文化の浸潤が促進されていく。もっとも、そうした歴史的制度は各地で一様に適用されたのではなく、したがって土家族へ与えた影響も同じではなかった」〔山路2002: 45〕。故に、土家族の婚姻習俗においても地域差があると見てよいだろう。

11 漢族の婚姻儀礼、6 ページを参照。

最後に、日本で出版された嚴汝嫻編『中国少数民族の婚姻と家族・上巻』の中で、彭官章は土家族の婚姻に関して、通婚範囲、結婚までの過程、婚礼等について紹介しているが〔彭1996: 225-247〕、この研究は土家族の婚姻習俗についての紹介が目的で、中国研究者による研究を邦訳しただけにとどまり、考察や分析がほとんどなされていない。また、この研究の資料は対象とする時期や土家族の分布地域が広く、かつ分散し、湖北省の土家族の婚姻習俗に関する詳細な研究としては十分とは言えない。

以上のように、従来の土家族の婚姻習俗に関する研究は、いずれも土家族の特定の地域社会の詳細な現地調査に基づくものではない。従って、本研究では、湖北省農村部の個別地域の土家族の婚姻習俗の変容に関する事例に焦点を当てる。即ち、調査地の唐崖寺村の「唐崖土司城」<sup>12</sup> 遺跡が2015年7月に世界文化遺産に登録されたことにより、地域の人々の生活が大きく変化したため、婚姻習俗についてもその変容について見ていきたい。

以上、本稿では、中国建国以降から現在までの婚姻習俗を大きく2つの時期に区分して概観した上で、湖北省恩施州唐崖寺村での現地調査による資料をもとに、湖北省土家族の婚姻習俗の実態とその変容に関する分析を試み、その変容の歴史的、社会的背景と諸要因を明らかにする。

### 1.3 調査地と調査対象

湖北省恩施土家族苗族自治州咸丰县唐崖鎮唐崖寺自然村<sup>13</sup>（以下、唐崖寺村と略記）は唐崖川の川縁にあり、唐崖鎮の南部に位置する（図1）。総人口760人（2014年）で、住宅地域によって7つの自治的な組に分かれている。村には土家族と苗族出身者が多く、他には漢族と朝鮮族など8つの民族がいる。生業は茶、子豚と煙草である。世界文化遺産登録のため、遺跡周辺の村民たち（その多くは第5, 6, 7小組の住民）は外へ移住することになった。彼らの多くは従来の家屋（写真1参照）から「唐崖寺移民安置小区」<sup>14</sup> や臨時の仮設住宅に移り住んでいるが、それでもまだ、少数の村民が村に残って住んでいる。遺跡保護区内にある移住した村民の土地は、遺跡保護を目的に国家へ売られ、普通用地になった。彼らの中で、60歳未満の場合、草取りや警備員など遺跡の環境保全に関する仕事に着くことができ、少数の若者が観光ガイドや切符の販売員になっている。また、一部の人々が観光土産店やレストランを経営している。

12 「唐崖土司城遺跡」は咸丰县唐崖鎮の東部に位置し、唐崖鎮の中心部から3キロメートル離れている。この遺跡は元代初期（1246年）に建立され、470年の歴史がある。総面積は57.75平方メートルで、3街、18巷、36院からなる。清朝雍正時期の「改土歸流」の政策が実施されたあと、「土司」制度が廃止され、当時の唐崖土司（覃氏、18代土司）も廃された。「唐崖土司城遺跡」は1986年に咸丰県の「県級文物保護單位（県の文化財）」、1988年に恩施州の「州級文物保護單位（州の文化財）」、1992年に湖北省の「省級文物保護單位（省の文化財）」として『中国名所辞典』に登録され、2006年に中国の第6回「国家文物保護單位（国家文化財）」になった。その後、「唐崖土司城遺跡」と湖南省「永順土司遺跡」、貴州省「播州海龍屯遺跡」の3つの土司遺産は2013年3月に世界文化遺産登録に申請され、2015年7月に登録された。現在、「唐崖土司城遺跡」はすでに観光化されていて、遺跡周辺での観光施設の建設が進んでいる。

13 人々が自然発生的に集まってできた村である。それに対して、「行政村」がある。「自然村」と「行政村」は中国の行政区分でもあり、「行政村」はいくつかの「自然村」から構成される場合もあるし、1つの「自然村」が同時に「行政村」として存在する場合もある。

14 遺跡範囲内の住宅から鎮の町へ引越した移民住宅団地。唐崖鎮の中心部にある。その中に3つのアパートと駐車場や公共の休憩娯楽区域がある。各アパートは6階建てで、合計30室あり、1階は全部店舗用の部屋で、2階以上が住居用の部屋である。写真2を参照。

本研究の調査対象は、唐崖寺村の人であり、1949年以降結婚式を行った土家族出身の既婚者である。

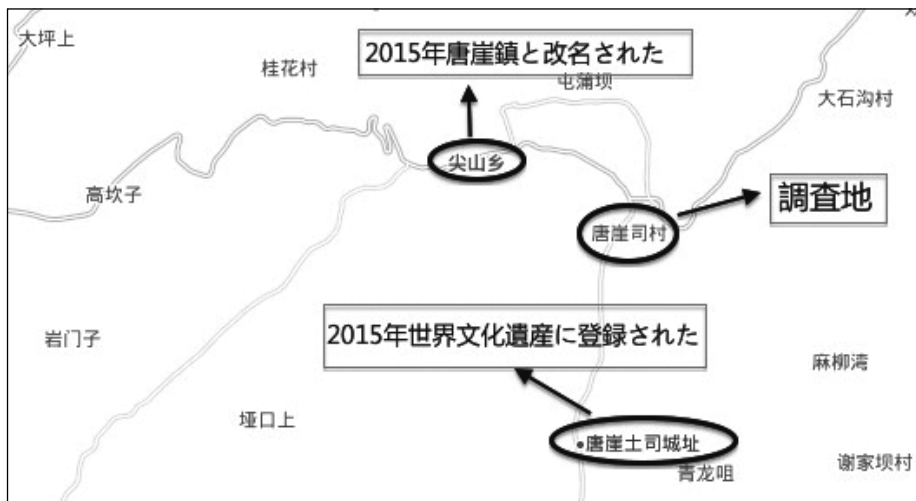


図1：唐崖寺村の位置 出典：www.baidu.com より筆者作成



写真1：唐崖寺村の土家族の住宅（2014年8月筆者撮影）



写真2：現在の唐崖寺村の土家族の住宅団地（2016年8月筆者撮影）

#### 1.4 研究方法

本研究は、まず、文献研究により、中国と日本での先行研究を整理し、次に、現地調査により、インタビュー調査と参与観察による調査を組み合わせ、2014年と2015年の2度にわたって、唐崖寺村で資料収集を行った。調査対象者は湖北省の唐崖寺村の住民たちである。

## Ⅱ. 土家族の婚姻習俗

### 2.1 従来の土家族の婚姻習俗

婚姻の定義について、『中国婚姻史』によると、「一指婚娶の礼儀；二指夫婦双方：婿曰婚，妻曰姻；三指親家：婿之父為姻，婦之父為婚，亦可反之；婿之父為婚，婦之父為姻；四指両家親族：婚，婦家也，姻，婿家也」[蘇ほか1995: 3]とある。即ち、婚姻とは、結婚儀礼、夫婦双方の親関係、夫婦関係、親族関係を含むものであるが、本稿における「婚姻」は、主に結婚儀礼を指す。本稿において「習俗」とは、特定の地域の特定の人々の間に定着している日常生活の儀礼やルールを指す。また、「改土帰流」以降、土家族の人々は長期にわたって漢族や苗族などほかの民族と一緒に居住してきたので、他の民族との結婚が多くなっているが、本稿では、主に土家族同士の婚姻の事例を取り上げる。

漢族の婚姻儀礼は『礼記』の「六礼」と呼ばれるように、「納采（男側が仲人に依頼して、女側に正式な結婚申込を提出する）」、「問名（男側が女側から花嫁の生年月日、時間と干支をもらい、占い者に頼んで花婿と花嫁の相性、結婚の期日などを占う）」、「納徴（男側が女側に結納品など婚資を贈る）」、「納吉（占い師からもらった結婚の期日を女側に知らせる）」、「請期（婚礼の期日と儀礼の時刻を申し入れる）」、「親迎（花嫁を迎えに行く）」から構成される。

また、漢族は「父母之命，媒酌之言（親と仲人の取り決めで結婚）」、「門当戸対（結婚相手の選択をその家庭の経済力と社会的地位で判断する）」、「嫁鶏随鶏，嫁犬随犬（親の決めた結婚に従って，婚後の生活を送る）」など婚姻習俗がある。それらの婚姻習俗や儀礼が「改土帰流」以降，全国的に広く見られる。

土家族の結婚も漢族からの影響により，「六礼」のような結婚習俗の名称こそないが，その結婚の流れは「六礼」とほぼ同じである。「改土帰流」以後の婚姻は父母の言いなり，媒酌人の裁量まかせとなり，家と家との釣り合いや財産の多寡といった制約を受けるようになった。かつての自由恋愛による結婚は次第に売買婚もしくは変容した売買婚に取って代わられた。婚礼も日増しに煩瑣で複雑なものとなって，「求婚」「婚約」「年始の挨拶」「結婚」「里帰り」の5つの手順を踏むようになった〔彭1996: 234〕。他方，土家族の婚姻習俗には，土家族の相手選びから正式な挙式が終わるまでの段階は以下になる。

従来，土家族は一般に，親の取り決めやお見合いで知り合い，結婚に至る場合や，自由恋愛から縁談，さらに結婚に至るケースもある。男は自由恋愛で女の子を知ると，また，親の方でもある女の子を見込むと，仲人を立てる必要がある。これを「請媒」という。縁談の相談は，両方の知り合いで既婚者（男女可）を仲人に依頼している。仲人は男の代わりに相手の娘の家に求婚に行く。これを「説親」という。一般的には，仲人は求婚のため，女の家には3回ぐらい行くことが必要である。

娘の父母がこの縁談に同意したら，男性の方の父母は仲人に依頼し，仲人は贈り物を持って女性の方の親を訪問する。これを「提親」という。そして，女性の親から，娘の誕生年月日と時間を記した赤い紙をもらって男性の方の親に渡す。これを「討八字」という。その後，「地理先生」<sup>15</sup>に，男女双方の誕生年月日と時間および干支から2人の相性がいいかどうか占ってもらう。これを「合庚」という。2人の相性がよければ，男性と媒酌人は贈り物<sup>16</sup>を持って一緒に女性の家へ行く。男性は女性の方の祖先に祭祀品と線香を捧げ，2人の結婚について祖先に知らせる。これを「挿香」という。その数日後，男性は女性の服装や身の回りのものなどの贈り物を用意して，女の方へ贈る。贈り物の品数が必ず偶数になるようにする。これを「放櫛子」という。女は婚礼の日に，その贈り物の中の櫛で，髪を結び，髪型を変える。その後，爆竹を鳴らして，周りの人々に2人の婚約を知らせ，これによって2人の婚約が成立する<sup>17</sup>。

男性の方は「地理先生」に結婚式の日取りを依頼した後，女性の方に結婚式の日取りを知らせる。これを「送日子」という。その後，男性の方は婚礼と結納品を準備し，女性の方は嫁入り道具の準備をする。

土家族は，男女両方に分かれて，少なくとも2日間を通して，結婚式を行う。

まず，男女それぞれの家で結婚のお祝いがある。結婚式の最初の日には花婿の方が結納品を花嫁の家へ贈り，結婚式と結婚披露宴を準備する。その日の夜に，「告祖」と呼ぶ，祖先に自

15 地相や日取りなど風水に関することを見る易者。

16 くお餅，麵類，お酒と豚の足。それらの贈り物は女の家族と親戚に分けて贈られる。

17 婚約の日は必ず偶数日である。婚約後，2人は会うことは禁じられ，外で出会っても，言葉を交わすことと，目を合わせることが禁じられている。婚約以降の祝日や女性の方の親の誕生日の際には，男性は女性の家へ行って挨拶をする。しかし，その際も，男性と女性が会ってはいけない。一般的には，婚約から1年また2，3年後に結婚となることが多い。



分の結婚のことを知らせる儀礼をする。それに対して、女性の方はその日に結婚祝いがあり、これを「打発姑娘」という。花嫁の家の居間と庭で、お祝いの宴会を行う。これを「送嫁飯」という。この日の深夜になると、花嫁の父方のオバが花嫁のため「冠笄」<sup>18</sup>する。つまり、5種類の色の糸を1本にし、それで花嫁の顔の毛を抜き、前髪を後ろへ結ぶという儀礼を行う。その後、花嫁は結婚式の衣装と靴に着替え、生家を離れるときの「離娘席」と呼ぶ食事を食べる。

そして、翌朝つまり結婚式の2日目の「吉時」<sup>19</sup>に、花嫁の兄また弟は花嫁を背負って、花嫁の寝室から居間に移し、そこに置かれた輿に座らせ、花婿の家へ移動する。出発する前に、「道師先生」<sup>20</sup>は「回喜神」、つまり、花嫁を守り、邪気を抜くため喜神を祭祀するという儀礼を行う。

その日の昼に、花婿の方の「接親」<sup>21</sup>の人々が花嫁の家に行って、品数が必ず偶数の結納品を花婿側から花嫁の家に送る。これは「過礼」という。花婿は家で、翌日の儀礼や接客の準備をする。翌日の朝、花婿は花嫁を迎え、花嫁は輿に乗って、花婿や友達、親戚（親以外）と一緒に花婿の家に行く。

その後、花嫁の関係者は家へ帰って、最後に花嫁が無事に花婿の迎えをうけて、花婿の家に入り、結婚式の本番が始まる。花嫁が到着すると、花婿と花嫁は「堂屋」<sup>22</sup>で神様と祖先、花婿の親に対してお辞儀をする。これは「拝堂」という。その後、花嫁は閨に入り、花婿の方は、外で親戚の男たちや友人たちが花婿の帽子に花を挿す。これは「插花」<sup>23</sup>という。

翌朝、花嫁は花婿の親と父方の親戚にお茶と自分の手作りの布靴を渡し、花嫁は花婿の両親に対する呼称を変え、義父を「伯伯（オジさん）」、義母を「伯娘（オバさん）」と呼ぶようになる。これは「敬茶」という。その後、花婿側の親戚と花嫁側の親戚の会合があり、そこで、新婚夫婦は全部の親戚に挨拶して、両方の親戚が互いに認識した後、花嫁側の親戚は花嫁を花婿に正式に渡して、各自の家に帰る。これは「交親」という。こうして花嫁は、花婿の家の一員としての生活が始まる。新婚夫婦は結婚式が終わった後3日目の朝、礼品を持ち、花嫁の実家へ里帰りする。これは「回門」という。以上の流れは表1のようになる。

表1 土家族の伝統的な結婚手順

恋愛段階	「親の取り決めやお見合いが多く、自由恋愛で縁談になる場合もある」, 「請親」, 「説親」
婚約・結婚式段階	「提親」, 「討八字」, 「合庚」, 「挿香」, 「放櫛子」, 「送日子」, 「婚礼」, 「交親」
結婚後	「回門」

以上、本節では、土家族の従来の婚姻習俗文化一般について整理した。土家族の婚姻習俗は、各時代の政治政策や経済発展の状況とその置かれた自然や地理的環境などによって異なる。その特徴として、漢族文化の影響が全てにおいて見られ、道教などの宗教も深く影響している。一方、土家族は同じ民族でありながらそれぞれの地域によって習俗の違いが見られるので、次節では、湖北省土家族の婚姻習俗について見ていくことにする。

18 また、「開顔」や「櫛頭」と呼ぶ。これは花嫁の成人儀礼とも思われる。

19 良い時間。

20 道教の邪気を抜く人。

21 花婿側から結納品と嫁入り道具を送り、花嫁を迎える人たち。彼らは花婿の親戚、友達や同じ村の人である。

22 家の居間。

23 また、花婿の成人礼の一環である。

## 2.2 湖北省土家族の婚姻習俗

中国土家族は、分布地域によって、ほぼ「北支」<sup>24</sup>と「南支」<sup>25</sup>に区別される。「北支」の土家族は土地の人を意味する「bizika」<sup>26</sup>と称され、「南支」の土家族は「巴人」を意味する「mozihei」<sup>27</sup>と自称している。湖北省恩施地域土家族は、「北支」に属する。

以下、湖北省恩施地域土家族の婚姻習俗について見ていこう。

### 1) 女兒会

「女兒会」は、毎年旧暦の7月12日に行なわれ、恩施土家族の自由恋愛の1つの様式であり、祝日である。かつて、土家族の男女は「女兒会」に参加する時、歌垣や農産品などの売買を通じて、好きな人を探し、恋愛することができたという。

### 2) 哭嫁と陪十姊妹

「哭嫁」は女性が結婚するために、必ず実家で母または他の年輩の女性から習うものである。花嫁が、親と親戚や友達への感謝と、その婚姻への不満、将来の婚姻生活への心配などの気持ちを表すため、歌を歌いながら泣くという習俗があった。歌詞の内容は親、兄弟と友達への感謝と離れがたさ、仲人への叱りと怒りと結婚生活への不安などを描写したものである。花嫁は結婚の1ヶ月前から哭き、裕福な家の娘は、1年や半年前から哭く。「哭嫁」は花嫁が家を出る前の節目に行っている。「哭嫁」が最高潮になるのは、結婚式当日に花嫁が出発する際である。この日は、花嫁1人だけが哭くのではなく、花嫁の家族や友達、また近隣の人々が花嫁のところへ行って一緒に哭く場合もある。

「陪十姊妹」は女性が、結婚式の前日に、花嫁の関係者である未婚女性9人と花嫁と一緒に「堂屋（居間）」で座って哭く風習である。10人は泣きながら、1人ずつ歌を歌う。その歌詞の内容は姉妹の子供時代や少女時代の感情や惜別の気持ちを表す。未婚者の女性の人数が足りない場合には、既婚の女性が参加する。その場合、歌の内容は花嫁の婚姻生活についての建議と経験、それに文句が増えることになる。また、「陪十姊妹」は、恩施土家族の「哭嫁」の一環と考えられている。

### 3) 告祖礼と陪十兄弟

「告祖礼」では、結婚式の日の夜の明け方、花嫁と花婿は各自の家の「堂屋（居間）」の祖先の霊位を祭祀して、結婚について祖先に報告し、結婚式と結婚後の生活が順調であることを祈る。

「陪十兄弟」は、花婿の関係者の男性9人と花婿と一緒にお酒を飲みながら、談笑するという風習である。これらの儀礼は花婿の成人式とも考えられている。

### 4) 無媒不成婚と謝媒

仲人がいないと結婚できない。言い換えると、「媒人（仲人）」がいないと、その婚姻が人か

24 湖南省の湘西土家族苗族自治州と張家界市、湖北省の恩施土家族苗族自治州と宜昌市の土家族。

25 重慶市の渝東南地方、貴州省の黔東北地方と、湖南省湘西土家族苗族自治州鳳凰県の土家族。

26 土家族言語での意味は、ここの人。

27 土家族言語での意味は、巴国の子孫、巴人。

ら非難されるという。「謝媒」とは、結婚した2人が、結婚後1年以内に豚の頭と尻尾（頭と尻尾は開始から最後まで完成という意味がある）を礼品として持ち、仲人に恩を返すことが土家族の結婚には重要な習俗である。

以上、本節では、恩施土家族の婚姻習俗について見てきた。湖北省恩施地域の土家族の婚姻習俗の特徴として、地域の独自の恋愛習俗である「女兒会」があり、男性と女性双方の結婚祝いや成人式などは他の土家族地域のものと本質的にはほぼ同じだが、部分的には差異が見られる。恩施地域は一連の国家政策や都市化などの影響により、かつての婚姻習俗が近年、次第に消えつつある一方で、それらの婚姻習俗は、近年の少数民族観光ブームによって、観光地で民族文化として展示され、例えば、恩施州政府は、地域観光会社と一緒に、「女兒会」の一部を観光開発し、地域観光の目玉に据えている。

次章では、恩施州の農村地域の土家族の婚姻習俗の変容について、大きく2つの時期、即ち、1949年から1970年代前半の建国初期から「改革開放」までと、1970年代後半の「改革開放」以降現在までの目覚ましい経済発展期に分けて見ていくことにしよう。中国社会は1970年代を境にその前後で大きな変貌を遂げてきたため、この2つの時期に分けて土家族の婚姻習俗の変容を見ていくことにはそれなりの合理性があると思われる。

### Ⅲ. 中国建国以降唐崖寺村における土家族の婚姻習俗の変容

#### 3.1 中国建国初期から「改革開放」まで（1949年前後～1970年前半）

##### 1) 謝さんの事例

謝さんは土家族出身で、1927年に生まれ、村一番の年長者である。彼女は学校に通ったことがなく、自分の名前が書ける程度で、これまでずっと農業をしてきた。夫の張さんは唐崖寺村の土家族出身で、59歳でなくなった。結婚前、謝さんは唐崖寺村の隣の両河口村の実家に住んでいた。

謝さんの親は、彼女が5歳の時に、張さんの親と相談して、当時3歳の張さんと婚約させた。彼女の母と張さんの祖母が同姓であるため、張さんの祖母が謝さん母の父方のオバにあたる（その地域では同姓の人々同士のつながりが強く、疑似的な血縁関係にあると考えている）。その2人の間には血縁関係はないが、両家の関係がもっと強くなるよう願って、謝さんと張さんの親同士がその2人を婚約関係にしたのだった。謝さんはこの婚約について、「子供の時には、婚約ということについて何もわからなかった。ただ、村の他の子どもたちから、私がすでに婚約していることをからかわれた。私の家族と婚約者の家族が仲良しだし、隣村に住んでいたの、時々市場や冠婚葬祭に行く時に会ったことがあるけど、全然話をしなかった。それは、2人とも恥ずかしかったし、親は話すことは恥と言ったからだ」と述べる。

その15年後、張さんが18歳になると、2人は結婚した。結婚式を挙げるまでの15年の間に、毎年、「月半節」<sup>28</sup>、「春節」<sup>29</sup>、謝さんの親の誕生日に、張さん側は謝さんの家へ礼品（素麺、白酒と豚の足など）を携えて、挨拶に行った。また、謝さん側は張さんに返礼（豚のロース肉な

28 土家族の祝日の1つ、毎年旧暦の7月12日。

29 中国の旧暦の正月。

ど)を必ず贈る。ところが、張さんが謝さんの家に行った時、謝さんと会うことは禁じられていた。

結婚式の前日に、張さんの親は「看期」つまり結婚式の日を決めるため、謝さんと張さんの「生辰八字(生年月日と時間)」を「地理先生」に依頼した。その後、張さんの父方のオジが仲人を頼まれ、仲人は張さんの代わりに結婚式の日取り(「送日子」)と謝さんの服装2セット(服とズボン、結婚式用と日常用)、「塩茶米豆」(結婚後の生活が糧食の余裕があることを示す象徴品、塩10斤<sup>30</sup>、お茶10斤、米20斤、大豆20斤)を結納品として謝さんの家へ贈った。謝さんの嫁入り道具は、掛け布団10組、家具(机と椅子セット、箱2個、筆筒2個、火鉢1個)と糧食(米50斤、トウモロコシ50斤)、日用雑貨(厨房道具など)と「塩茶米豆」で、結婚式の当日に謝さんの家へ送り届けられた。

謝さんの家では、結婚式の初日に「打発姑娘(花嫁の家の結婚祝い)」の祝いをした。謝さんの家の親戚(彼女の両親の親戚)、友達、同じ村の人々が謝さんの家へ行ってお祝いをした。礼金が少なく、布団(2セット)、筆筒(1個)、糧食(トウモロコシ20斤、米20斤、卵20個)と日用雑貨が主であった。その時、謝さんの家では「送嫁飯」と呼ぶ宴会を行った。その日に「迎親」<sup>31</sup>の隊列(仲人と張さん側の未婚女子2人および嫁入り道具と結納品を運搬する人)が謝さんを迎えるため、謝さんの家に到着した。

結婚式当日の夜明け頃、謝さんのところの2人の既婚女性(謝さんの祖母と父方のオバ)が謝さんのために「冠笄」すなわち、顔の毛抜きと髪結いの儀礼をした。その後、謝さんは「露水衣と露水裙(邪気を抜く服装)」を着て、「離娘飯(親との別れ際の食事)」を食べた。よい頃合い(「吉時」<sup>32</sup>)を見計らって爆竹をした後、彼女の兄が彼女を寝室から居間に置かれた輿まで背負って行った。

謝さんはその輿に乗って、「迎親」の隊列と「送親」<sup>33</sup>の隊列(謝さんの親以外の人、主に彼女の兄弟姉妹また親双方のオジとオバ)と一緒に張さんの家へ向かった。輿は張さんの家の居間に着くと、「圓親婆(婚姻円満の既婚者、花嫁の手伝い女)」が謝さんを輿から下ろして、張さんと「拜堂(祖先などへの拝礼)」の礼をした後、謝さんを「新房(新婚夫婦の寝室)」へ連れて行った。謝さんは「露水衣と露水裙」から一般服に着替え、顔を洗い、部屋のベッドに座った。張さんは親と一緒に家の庭で行った宴会で接客した。その日の客は謝さん側の「送親」の人々、張さん側の両親の親戚や友達、同じ村の人たちであった。夜になって客人はみんな帰った。「送親」の人々は、「交親」の儀礼、つまり、張さんの家族とその2人の結婚後の生活などについて談笑した後、翌日の朝に帰って行った。

謝さんはその日から3日間、男性側からの食べ物を食すことを禁ずる「三天不食娘家飯」という花嫁の習俗を守って、自分の家から持ってきた物(ゆで卵、お餅、ジャガイモなど)だけを食べた。

謝さんと張さんのそれぞれの家で客人からもらったお祝いは、現金(2角<sup>34</sup>、4角)が多いが、

30 計量単位。1斤は0.5グラム。

31 花嫁を迎える人々。

32 良い時間。

33 花嫁を送る人々。

34 中国の通貨単位の1つ。1元は10角に相当する。

食糧（トウモロコシ20斤、米20斤など）をもらう場合もあった。礼金のお返しは宴会の料理であった。

結婚式の3日目、謝さんと張さんは謝さんの実家へ贈り物（宴会料理とお酒1壺、2斤）を持って里帰りした（「回門」）。結婚の1ヶ月後、2人は「謝媒」をして、豚の頭と尻尾を持ち、仲人のところへ感謝に行った。2人はその何年後かに婚姻届を出した。謝さんの結婚の手順は下記の表2のように整理できる。

表2 謝さんの結婚の手順

恋愛・婚約段階	親が決めた結婚、毎年花婿の張さんが謝さんの家へ挨拶に行く
結婚式段階	「請媒」、「看期」、「送日子」、「結婚」、「交親」
結婚後	「回門」、「謝媒」

## 2) 張さんの事例

張さんは1938年生まれ、中卒で、妻の任さんは1937年生まれである。2人とも唐崖寺村の土家族出身である。張さんは生産大隊の医者で農業にも従事した。任さんも農業をした。1961年に張さん（23歳）は任さん（22歳）と結婚した。結婚式の前に婚姻届を出した。

張さんは、いとこの姉から任さんを紹介してもらい、2人は恋愛関係（「処対象」）になった。その後、その姉は張さんの代わりに求婚するため（「説媒」）、任さんの家を2回訪問し、任さんの親から2人の結婚の許可をもらった。当時、経済状況がよくなかったので、「説媒」の礼品はなかった。

そして張さんは、村の年配者に頼んで結婚の日取り（「看期」）を決めた。その後、張さんは任さんの親に結婚の日取りを知らせる（「送日子」）時、結婚用の服（他の人から借りた洋服1枚）を結納品として任さんの家へ送った。任さんの兄は、任さんの嫁入り道具（掛け布団1組と箆笥1個、お母さんの古い物）を結婚の前日に、張さんの家へ送った。

結婚の当日の朝、任さんはいとこの姉と2人で歩いて張さんの家へ行った。張さんは任さんが到着するまで、いつもの通り農作業をしていた。お昼時、張さんと任さんは張さんの家族、いとこの姉と一緒に食堂でご飯を食べ、2人の結婚を祝った。儀礼はほとんど何もしなかった。その年のお正月に2人は、素麺1本（2斤）と白酒1壺（2斤）を贈り物として携えて、任さんの家へ里帰りした（「回門」）。張さんの結婚の流れは以下の表3のようになる。

表3 張さんの結婚手順

恋愛段階	お見合いで1年間恋愛関係
結婚式段階	「説媒」、「看期」、「送日子」
結婚後	「回門」

## 3.2 「改革開放」以降の婚姻習俗（1970年代後半～現在）

### 3) 王さんの事例

王さんは1953年生まれで、奥さんの周さんは1958年生まれである。2人とも唐崖寺村の土家族出身で小卒である。王さんは建築関係の仕事をし、周さんは農業をしている。1986年に王さ

ん（33歳）は周さん（28歳）と結婚し、その1年後、婚姻届を出した。

王さんはいとこのお姉さんから周さんを直接紹介してもらった。その時、王さんは周さんに離婚歴があることを知った。周さんが病気になって、王さんが周さんの世話をしたこと、2人は恋愛関係になった。その半年後、王さんは自分で周さんの家へ求婚（「説媒」）に行き、周さんの親から結婚の許可をもらった。その後、王さんは自分で旧暦の暦を見て結婚式の日取りを決め、周さん側に行き、結婚式の日を知らせた（「送日子」）。

結婚式の前に、王さんは周さんの結婚式用の服（洋服一枚）を結納品として周さんの家に送った。周さんは前回の婚姻の嫁入り道具（布団1組、筆筒1個、火鉢1個）を今回もまた使った。

結婚式当日の朝、周さんは1人で歩いて王さんの家へ行った。王さんの経済状況はよくないので、結婚式の宴会はしなかった。2人は王さんの家族とご飯を食べて2人の結婚のお祝いをしたが、儀礼はほとんどなかった。その年の春節に里帰り（「回門」）したが、礼品はなかった。王さんの結婚の流れは以下の表4のようになる。

表4 王さんの結婚手順

恋愛段階	お見合いで半年間恋愛関係
結婚式段階	「説媒」、「送日子」
結婚後	「回門」

#### 4) 任さんの事例

1990年に、任さん（22歳）は張さん（22歳）と結婚した。婚姻届を結婚式の前に出した。張さんは、任さんとは同級生で、学生時代から任さんのことが好きだった。中学校卒業後、張さんは父方のオジに仲人の役を頼んだ（「請媒」）。1984年に、張さんのオジは任さんの親のところに3回求婚（「説親」）に行った。毎回「説親」の贈り物は、豚のロース肉1塊（2斤）、お酒2壺（4斤）、素麺2本（4斤）であった。そして3回目に、任さんは母と一緒に張さんの家へ家庭状況などの様子を見に行った（「看門戸」）。そして、仲人と張さんは任さんの家へ行って任さんに結納品を渡し（「放櫛子」）、任さんの祖先祭祀の儀礼をして（「挿香」）、婚約（「定親」）が整った。婚約の贈り物は、豚の後足4本、服装8セット、靴4足と日用雑貨などであった。6年後、2人は結婚した。張さんの親は結婚式の日取りを1990年の「国慶節」<sup>35</sup>に決めた。正式の婚約から結婚式までの「春節」、「端午節」<sup>36</sup>、「月半節」、「中秋節」<sup>37</sup>の際に、張さんは任さんの家へ挨拶に行き、贈り物を贈った。毎回の贈り物は、豚のロース肉（2斤）、お酒1壺（2斤）、素麺1本（2斤）などであった。任さんの親は、張さんから贈り物のお礼として、現金（50元など）を張さんにお返しした。

結婚式の前日に、張さんは、任さんの服10セット（服とズボン、赤い結婚式用と日常用）、靴6足（皮靴3足、布靴3足）、時計1本、豚の後足1本、「塩茶米豆」（塩10斤、お茶10斤、米10斤、大豆10斤）、日常雑貨などを結納品として任さんの家へ送った（「送礼」）。任さんの嫁

35 中国の祝日の1つ、毎年10月1日。

36 中国の祝日の1つ、毎年旧暦の5月5日。

37 中国の祝日の1つ、毎年旧暦の8月15日。

入り道具は掛け布団10組、箆筩3個、箱3個、机1個、火盆1個と日用雑貨で、結婚式の日に張さんの家に送られた。

任さんの家は、結婚式の前日に花嫁側の結婚祝い（「打発姑娘」）をした。礼金の多くは5元と6元であったが、50元もあった。また、掛け布団セットや食品（トウモロコシ20斤、米20斤、卵20個など）もあった。礼金のお返しとして任さんの家で宴会を行った。

結婚式当日の早朝、既婚婦女2人が任さんに「冠笄（顔の毛を抜き、髪型を変える）」の礼をしてあげた後、任さんは新しい服を着て、「離娘飯（親との別れ際の食事）」を食べた。そして、「吉時」の爆竹をした後、任さんの「圓親婆（婚姻円満の既婚者、花嫁のことを手伝い女）」は任さんを屋外へ連れていった。任さんは自分で「露水傘（邪気を抜く傘）」をさし、未婚少女2人が任さんを連れ、「迎親」や「送親」の人々と一緒に張さんの家へ歩いて行った。その途中、任さんは話してはいけなかった。半時間後、任さんが張さんの家の外に着くと、「露水靴（邪気抜く靴）」を一般靴に履き替えた。張さん側の「圓親婆」は任さんを迎えに行き、部屋に連れてきた。そして、任さんは張さんと「拜堂（祖先などへの拝礼）」の礼をした後、任さんは寝室に行き、「喝茶（水でうがい）」と「洗顔（顔を洗う）」をした後、部屋のベッドに座った。一方、張さんは外で親と一緒に客を招待した。その日の客は張さんの親戚や友達、同じ村の人であった。宴会の後、客が皆帰ってから、「送親」の人々と張さんの家族と婚後の生活などの挨拶話（「交親」）をして帰った。礼金（5元が多く、50元もあった）や食べ物（トウモロコシ10斤とか、米10斤とか、大豆10斤）をもらった。礼金のお返しとして、張さんの家で宴会を行った。任さんはその日の昼は自分の家から持ってきた物（ゆで卵、餅など）を食べたが、翌日の朝から、張さんの家族と一緒にご飯を食べた。

結婚式の3日目の昼、任さんと張さんは任さんの家へ里帰り（「回門」）をし、贈り物として、結婚の宴会料理とお酒1壺、お菓子などを持参した。その後、2人は仲人のもとへ、豚の頭と豚の尻尾、素麺2本とお菓子を贈り物として持って行った（「謝媒」）。任さんの結婚の流れは下記の表5のように整理できる。

表5 任さんの結婚手順

恋愛段階	自由恋愛、「張さんが任さんの家へ挨拶」
結婚式段階	「請媒」、「説親」、「看期」、「送日子」、「結婚」、「交親」
結婚後	「回門」、「謝媒」

##### 5) 張さんの事例

張さんは26歳、中卒、唐崖寺村の土家族出身で、自営業をしている。夫の胡さんは32歳で、小水坪村の土家族出身で、公務員である。

2008年に張さん（20歳）と胡さん（26歳）は結婚した。婚姻届を結婚式の前に出した。2007年に2人はインターネットのQQ<sup>38</sup>で知り合い、恋愛関係になった。胡さんは同僚に仲人の役を頼んで（「請媒」）、張さんの家に2回求婚（「説親」）に行った。贈り物は、お酒1箱、豚のロース肉、果物とお菓子などであった。

38 中国のチャットソフトである。

1ヶ月後、2人は婚約した（「定親」）。胡さんが準備した「定親」の贈り物は、豚の後足、豚のロース肉とお酒1箱であった。また、張さんに4000元、ダイヤモンドの指輪と黄金のネックレスを結納品の一部として贈った。2人は2008年に結婚することが決まり、正式の婚約から結婚式までの「端午節」の際に、胡さんは張さんの家へ挨拶に行き、豚の後足（1本）、果物、お菓子などを送った。張さんの親は、胡さんからの贈り物のお礼として、200元の現金をお礼として胡さんにあげた。結婚式の取り扱いは、胡さんが「地理先生（占い師）」に頼んで決めた。

結婚式の前日に、胡さんは結婚式用の服と日用雑貨などを張さんに送った。張さんの嫁入り道具は掛け布団12組、10,000元と家具、電器と日用雑貨で、結婚式の日胡さんの家に送られた。

張さんの家は結婚式の前日に「打発姑娘（花嫁の家での結婚祝い）」をして、家の庭で宴会を行った。客からもらった礼金の多くは50元、100元であった。礼金のお返しは煙草1箱と「喜飴（お菓子）」であった。

結婚式当日の早朝、美容院の人が張さんに花嫁の化粧をしてあげた後、張さんは新しい服を着て、「離娘飯（親との別れ際の食事）」を食べ、「吉時」の爆竹をした後、未婚少女2人が張さんを屋外へ連れ出し、外で待っていた胡さんが張さんを車へ乗せた。張さんと胡さん2人は車に乗って、「迎親」の隊列（車4台、嫁入り道具など運ぶ人）と「送親」の隊列（張さんの父方のオバとオジの3人）と一緒に胡さんの家へ行った。半時間後、家の外に着くと、胡さんが直接張さんを背負って部屋に入った。昼になると、張さんは胡さんと一緒にレストランで客を招待した。客と「送親」の人々は食事が終わったあと、胡さんの家族に挨拶して家に戻った。

その日の客は胡さんの両親の親戚や友達、同じ村の人、同僚などであった。もらったお祝い金は50元や100元が多かった。礼金のお返しは、「喜飴（お菓子）」と煙草1箱であった。

結婚式の3日後の昼、張さんと胡さんは「回門」をし、その時の贈り物はお酒1箱、果物とお菓子などだった。当年のお正月の時、2人は、豚の後足1本を贈り物として持って仲人の家に行った（「謝媒」）。張さんの結婚式の流れは以下の表6のようになる。

表6 張さんの結婚手順

恋愛段階	自由恋愛
結婚式段階	「請媒」、「提親」、「定親」、「胡さんが張さんの家へ挨拶」、「婚礼」、「交親」
結婚後	「回門」、「謝媒」

## 6) 陳さんの事例

陳さんは唐崖寺村の土家族出身で、2014年に19歳であった。陳さんは父と妹の3人家族で、母は数年前に病気で他界した。父が農業をしながら建築関係の仕事をして陳さんと妹を育てた。当時、家の経済状況は良くなかったため、陳さんは中学校を卒業後、高校へは進学しなかった。夫の申さんは唐崖寺村の隣村の大石溝村の人で、朝鮮族出身であるが、祖父の時からずっと大石溝村に住んだ。父、母、2歳上の姉の4人家族で、申さんも中学卒業後は高校に進学せず、母が仕事している温州市にある筆の工場に出稼ぎにいった。

社会人になった陳さんは、同じ郷の大石溝村の申さんと2ヶ月交際した後、父に申さんのことを話し、父は2人の恋愛関係を承諾した。そして、申さんの紹介で、陳さんは温州市へ出稼



ぎにいった。今でも、温州市の筆の工場で仕事をしている。1年後（2013年）、中国の春節に2人が帰省したとき、申さんは父方のオジに仲人役を頼んで、陳さんの家に豚の後足1本、お酒2本とお菓子を持って求婚に行った。そして、2人は翌年（2014年）に結婚することに決まった。

しかし、2014年に、陳さんは20歳未満、申さんが22歳未満だったので、婚姻届を出すことができず、両家の村でそれぞれ結婚式だけをするようになった。2014年9月9日が「中秋節」であるので、その日に結婚式を行うことが決まった。申さんは陳さんの父と父方と母方の親戚へ挨拶に行き、陳さんの父に豚の後足1本、お酒1本と煙草1カートン、親戚の各家に豚の後足1本を贈った。陳さんの父や親戚は申さんにお返しとして現金（200元、400元など）をあげた。

陳さんの家の所在地は、唐崖土司の城の遺跡の中にある。陳さんの父は、結婚祝を新居で行うことに決めていたので、陳さんの家はその「唐崖移民安置小区」住宅団地のアパートの第1棟の2階へ引っ越した。

2014年9月8日に、陳さんの家で結婚祝いをした。その日の朝8時頃、陳さんの結婚祝いの手伝い人が全員揃い（表8参照）、宴会場で朝ご飯を食べながら、司会者の羅さんからその日の流れを聞き、手伝い人全員に6元1箱の煙草と20元の礼金が渡された。陳さんは家の中で家族と朝食の後、接客の準備をした。

朝8時20分（「吉時」）に、爆竹と花火を鳴らしたあと、陳さんの祝いの式が始まった。客も次々と陳さんの家へ到着した。客は陳さんの親戚、村の人、陳さんの父の仕事場の同僚、村の公務員であった。客が陳さんの家につくと、招待人たちはお茶1杯と煙草2本を客人に渡した。その後、客人は礼金を渡す処に行って、礼金を渡したあと、飴とお菓子をもらう。礼金は現金100元と120元が多く、一番高い金額は陳さんの父方のオバからの1,000元であった。親戚から礼金と一緒に布団セットを礼品としてももらう場合も多かった。その日の礼金の総額は2万円ぐらいであった。その他、親戚からの礼品の布団は合計8セットだった。

客人は礼金あるいは礼品を渡したあと、陳さんと陳さんの家族へ挨拶をし、昼の11時半に、陳さんのアパートの1階の空き店舗で宴会（「流水席」）に参加した（写真3）。宴会の席は1テーブル10席で、テーブルが20あった（表9参照）。食事をする時に、陳さんと父は客に陳氏の結婚祝いに参加してくれたことに感謝の挨拶をした。食事の後、客人は陳さんと世間話や明日の結婚式と結婚後のことなど談笑した後、帰宅した（「打発姑娘」）。

花婿の申さんは、昼11時ぐらいに車で陳さんの家に来て結納品を贈った。申さんが準備した結納品は現金2万元、「三金（金の指輪、イヤリングとネックレス）」、洋服2セット（赤色の結婚式用1セットと日常用1セット）、靴、日用雑貨（櫛や糸、傘と靴など）であった。申さんは陳さんと簡単な挨拶をした後、家へ帰った。

陳さんの家での祝宴は1日続き、午後6時にまた宴会を行い、夜8時ぐらいになって、客と手伝い人が帰った。陳さんは、夜9時から翌日の午後2時まで休みを取った。

2014年9月9日の朝3時（「吉時」）に、陳さんは父方のオバに顔の毛抜きと髪結い（「冠笄」）をしてもらい、親との別れ際の食事（「離娘飯」）を食べた。朝6時に、陳さんは花嫁の服へ着替え、町の美容師が陳さんのため花嫁の化粧をし、ほかの準備をした（写真4）。そのあと、陳さんと父は泣きながら、陳さんの結婚後のことと別れ際の話をした。また、陳さんは自分の

部屋に座ったまま、花婿が迎えに来るまで、この部屋から出ることができず、ほかの男性もこの部屋に出入りすることができなかった。陳さんの嫁入り道具は現金2万元、家具セット（応接間と寝室用）、家電セット（応接間用と厨房用）、布団12セット、日用雑貨（厨房用品など）などであった。

朝7時半に、申さんが「迎親」の人々（車5台、未婚の女の子2人、嫁嫁入り道具と結納品を背負う12人）と一緒に陳さんの家に着き、ご飯を食べた（「接親」）。朝8時（「吉時」）に、陳さんと嫁入り道具、花嫁を迎える人々、「送親」の陳さんの妹と父方のオバと一緒に申さんの家へ出発した。陳さんの父は陳さんをアパートの出口まで送り、そのあと、未婚女性1人が赤い傘をさし、1人が陳さんを直接結婚式用の車（「婚車」）の中に連れていった。「接親」の隊列は車5台（陳さん、申さんと未婚女性2人の4人で1台、陳氏の妹と叔母が1台、嫁入り道具と結納品で3台）であった。

陳さんの家から申さんの家の近くの道路まで車で10分の距離があった。そこから先の道は車が通れないので、全員車から降りて、歩いて申さんの家へ行った。申さんは陳さんを背負って、15分後に申さんの家に着いた。

陳さんは申さんの家の庭に着き、靴を履きかえた後、申さんの「圓親婆（婚姻円満の既婚者、花嫁の手伝い女）」は陳さんを部屋に迎えた。そして、申さん側の「総管（司会者）」は「堂屋（居間）」で祖先を祭祀した後、陳さんは「新房（寝室）」へ行って、「喝茶（水でうがい）」と「洗顔（顔を洗う）」の礼をして、部屋のベッドに座った。申さんは外で親戚や友達、同じ村の人を接待した。もらったお祝い金は120元が多く、50元もあった。礼金のお返しは、「喜飴（お菓子）」であった。

昼11時に、申さんの家の庭で、「流水席（宴会）」を行い、申さんの親は申さんと陳さんを連れて宴会客にお酒を勧めながら挨拶し、花嫁陳さんのことを紹介してまわった。申さんの家の「流水席」は10テーブルあり、3席設けられた。1テーブルは10人座であった（表9参照）。食事後、客は帰宅していった。陳さんの妹と叔母たちは昼の宴会に参加した後、陳さんと別れの挨拶をして歩いて家へ帰った。その日の午後、客は次々に申さんの家にやって来て、午後5時半ぐらいに、また庭で「流水席」を行い、夜9時に客と結婚式の手伝い人が帰り、陳さんと申さんの結婚式が終わった。

結婚式の翌朝9時に、陳さんと申さんは陳さんの実家に30分ぐらい歩いて行った（回門）。2人は町の店で贈り物（豚肉1塊、約10斤とお酒2箱、ソフトドリンク1本、カップ麺12個）を買い、陳さんの父と一緒に家で食事の後、申さんの家へ帰った。

結婚式の1週間後、陳さんは申さんと一緒に温州市の工場へ戻った。2014年の春節に、陳さんと申さんは仕事が忙しくて、村へ帰ることができなかった。申さんの親だけが温州市から村へ戻り春節を過ごし、2人の代わりに「謝媒」を行い、仲人に豚の後足1本とお酒1箱を贈り物として贈った。陳さんの結婚式の流れは以下の表7ようになる。

表7 陳さんの結婚手順

恋愛段階	自由恋愛
結婚式段階	「請媒」, 「提親」, 「申さんが陳さんの家へ挨拶」, 「婚札」, 「交親」
結婚後	「回門」, 「謝媒」

表8 陳さん家の結婚祝いの手伝い人

称 謂	仕 事 内 容	人 数 (人)
「総管」	司会者	2
「管情」	礼金の会計	4
「奉煙, 茶」	煙草とお茶の係	6
「厨房」	料理人	5
「牽龍」	宴会のホール係	3
「焼茶」	茶を準備する人	2
「勤雑」	その他	16

表9 陳さんの家と申さんの家の結婚祝いの宴会料理

	料 理	飲 み 物
陳さん	10皿（肉豆腐, トマトと卵の炒め, チンジャオロースー, 豚足の煮物, 豚の白身の蒸し物など）と2つの鍋料理（ニンジンと牛肉の煮物, ジャガイモと豚肉の煮物）	白酒, 瓶ビールとソフトドリンク
申さん	10皿（白菜の炒め, チンジャオロースー, 豚足の煮物と漬物, 蒸し物など）と2つ鍋料理（茼蒿と鶏の炒め物, 昆布と豚肉の煮物）	白酒, 瓶ビールとソフトドリンク



写真3：陳さんが住んでいる団地の空き店舗での結婚披露宴（2014年9月筆者撮影）



写真4：陳さんと彼女の父方のオバと一緒に結婚の準備（2014年9月筆者撮影）

### 3.3 考察

1950年代後半から1970年代前半まで、中国では経済が停滞し、1958年からの「大躍進政策」と並行して「人民公社」が設立されると、従来個人が保持していた小さな畑や家畜も取り上げられて集団所有となり、食事も個々の家ではなく村の共同食堂で食べるという徹底的な集団化が強いられた〔岸本2007: 172〕。1966年から1976年にかけて「文化大革命」が中国全土に広がり、国家と人々の生産生活の各方面に対して大きな影響を与えた。文革の混乱期においては共産党の支配力が次第に強くなっていったため、宗族観念、民間信仰を含む伝統文化の維持に大きな打撃を与えた〔兼城2009: 73〕。その時期、国家は旧思想、旧文化、旧習俗と旧儀礼を禁止（「破除四旧」）する政策を行い、『婚姻法』の婚姻自由（「实行婚姻自由，一夫一婦，男女平等的婚姻制度」）や婚姻干渉の禁止（「禁止包办，买卖婚姻和其他干涉婚姻自由的行为」）と親族内の結婚の禁止（「直系血親和三代以内的旁系血親の結婚が禁止」）さらに婚姻届けの義務化（「結婚应男女双方亲到所在地人民政府登记」）が全国的に普及した。

1949年の中国建国以降、当時の中央政府は国家の安定を第一の目標としていたことなどから、以前の民国また清朝時代の漢族の封建社会の文化習俗がまだ多く残存していたうえに、湖北省土家族地域と中央政府の所在地の距離が遠く離れていたため、その地域の統治も完全ではなかった。恩施土家族の結婚は、漢族の封建社会の頃の親か媒酌人が決めた結婚（「父母の命，媒酌の言」）が主流で、男女双方の家柄が釣り合っていないといけない（「門当戸対」）という考え方が広く定着していた。漢族と同じように、その時期の土家族の女性は、実家の財産を相続する権利がなく、故に、嫁入り道具は財産相続方法の1つでもあった。婚姻関係も、女性は夫に従属し、夫の私有財産であった。その時期の結婚式に至るまで多くの儀礼や習俗があった。

また、結婚年齢について、女性は普通15か16歳で、男性は18歳であった。女性25歳と男性30歳の結婚は晩婚と見られ、男性は女性より年上の場合が多く、年齢差は10歳までで、女性が男性より年上の結婚も少数あるが、一般的な年齢差は5歳までが結婚できた。農業を重要な生業とする土家族にとって、早く結婚することは、花嫁本人また花嫁の生殖能力が、花婿側にとっては労働力確保の重要な方法であった。結婚相手は同じ村や隣村、または同郷や隣郷が多かった。県外の人との結婚はほとんどなかった。土家族同士の結婚のほかに、漢族や苗族との結婚もある。土家族は農業を生業としているので、結婚した2人とも農業をしている場合が多い。

当時の婚資や結納、お祝は、現金が少なく、物が多かった。男性の方が、主として豚肉、食糧、布、服などを結納品として女性側に贈った。女性は家具、日用雑貨、少数の食糧、布団セットを嫁入り道具として準備した。白酒と豚はいつの時代でも贈り物に使われた。花嫁の移動は、一般的には、花嫁が花婿の家へ移動する時に必ず輿でいくことになっており、また、花嫁は花婿の家に到着するまで、足が地面に触れることは禁忌であった。その時代、結婚式に花嫁と花婿は民国時代の漢族の服に似た服を着用し、事例1)に見るように花嫁が邪気を防止する服装を着用することも必要であった。「挿香」と「放櫛子」も重要な婚約儀礼であった。「地理先生」に依頼して結婚の日取りを決めることも多かった。当時、国家は混乱期で、婚姻届けについての規則があっても、それに対する人々の意識が薄く、また、教育程度が低いため、婚姻届けを申請するということがほとんどなかった。結婚披露宴によって2人の結婚が社会的に認知された。漢族では同姓の人との結婚はタブーであったが、土家族の場合、特定の名字<sup>39</sup>の人との結婚はタブーである。また、土家族の父方交叉イトコ婚もまだ少し残存していた。

農業の集団化後、事例2)に見るように、お見合いと自由恋愛による結婚が流行った。土家族の人も、地域の「人民公社」の同じ「生産大隊」中の人と自由恋愛かお見合いで結婚することが多くなった。従来親また仲人の取り決めによる結婚（「包辦婚姻」）からも解放され、同時に、結婚に関する儀礼も多く消えていったが、仲人については、まだ重要な役割を有していた。自由恋愛またはお見合いの場合には、よく「生産大隊」の隊長または村長が「紹介人」即ち仲人になることが多かった。また、男性または女性の親戚か友達が「紹介人」になり、結婚相手を紹介してもらい、お見合いで結婚することも多かった。自由恋愛の場合は、男性は「紹介人」を名義上の仲人に依頼し、「紹介人」は2人のことを双方の親に伝えて、2人の婚約を決めることができ、また、お見合いの場合は、男女とも「紹介人」から結婚相手を紹介してもらい、どちらも結婚相手を選択する権利があった。それに、自由恋愛またはお見合いでは、ほとんど儀礼がなく、直接結婚に至る人が多かった。結婚式の日取りについても、結婚する本人か親が決め、国家の祝日を結婚日にするケースが多くなった。結婚前に男性と女性が会うことも自由になった。

「文化大革命」期は、経済状況は良くなく、多くの人は衣食（温飽）を追求した。さらに全国的に節約を主眼として社会主義社会の発展を推進していたことから、婚姻習俗または儀礼の簡略化や婚資の節約化が進んだ。結納品は少数の食糧と洋服（1, 2セット）、嫁入り道具はわずかな家具（衣装箱）が多かった。婚礼の宴会も禁止になり、お祝い金はほとんどなかった。一方、この時期には、国家は文化改革を全国的に推進したため、土家族のような少数民族の文

39 例えば、現在でも田、覃などの姓の者同士の結婚は禁じられている。

化習俗は「四旧」として、修正また廃止になった部分が多かった。

その他、法的結婚年齢が、女性は18歳以上、男性は20歳以上になった。結婚相手は、同じ村や隣村、また同じ郷や隣郷の者同士が多かったが、他の地域の人との結婚も増えた。その時期、家庭の経済状況がほとんど同じで、結婚相手はどちらも農業をしている場合が多く、女性は村の生産隊の幹事や部隊の人、または知識人と結婚するのが潮流であった。特定の名字の者同士の結婚はまだタブーであった。自由恋愛またはお見合いが中心で、女は結婚相手を選ぶ権利がだんだん持てるようになっていた。結婚の日取りは自分または男性の親が決める人が多く、結婚日はすべて偶数の吉日であった。結納品は、結婚式用の服と食糧で、嫁入り道具は食糧や家具と日用品が中心であった。お祝いの客は近所の人また親戚だけで、花嫁は自分で歩いて花婿の家へ移動した。結婚式で花嫁は普段よりいい服装を着た。婚姻届を申請した後、社会が2人の結婚を認知した。

1970年代後期の「改革開放」政策の開始以降、全国的に農村地域の経済状況が良くなり、政府の思想統制の弛緩とともに伝統的習俗への批判が弱くなった。こうして、自由恋愛の結婚が多くなり、お見合い結婚も流行った。また、事例 4), 5), 6) に見るように婚姻儀礼が多くなり、一部の婚姻習俗も次第に復活していった。土家族の婚資もだんだん多くなり、結婚に関する物が豊かになった。また通婚範囲も広がったが、それでも結婚した2人の実家は距離的に遠くないことが多い。さらに、配偶者の選択と婚姻関係については、男女の関係が平等になり、「哭嫁」など習俗も消えた。2001年の『婚姻法』では結婚年齢が修正され、土家族の結婚年齢も男性22歳、女性は20歳になっている。男女の年齢差は一般的には同じか、2、3歳の差があり、一般的には、男性は女性より年長である。

また、「改革開放」以降、全国の経済状況がよくなり、教育と交通状況が改善され、農村部の若者たちの間では出稼ぎが流行っている。村の若者たちも、省内や沿海部の都市へ出稼ぎに行き、日用雑貨の生産工場や建築関係の工事会社で働くようになったため、彼らは次第にお金を持つようになり、他の地域の人との結婚が増加し、都市部の婚姻文化の影響を受けるようになった。

近年、社会の発展につれて、土家族の配偶者選択の自由を束縛してきた社会的・政治的要因が減少していく。自由恋愛で結婚することは、今の土家族の若者の間で一般的な現象である。それに、子供の結婚に対する親の決定権力が弱くなっている。恋愛の手段も、スマートフォンの普及率が上がり、インターネット通信の便利さから、事例 5) の張さんと胡さんのように、携帯電話やQQ、WeChat<sup>40</sup>などインターネット通信手段を利用するケースが多くなっている。

しかし、それでもなお、土家族の婚姻習俗の中には、昔ながらの儀礼が多く伝承されている。例えば、結婚には必ず仲人がいるという習俗がある。結婚後も、仲人へ礼品を贈り、感謝するなど、仲人は現在でも重要なものとなっている。

花嫁の実家は、結婚の際に、嫁入り道具でもって財力と社会地位を誇示する習俗がずっとあった。花嫁は娘として、家族の財産を継承することができないので、嫁入り道具は家族の財産をもらう1つの方法であった。一方、嫁入り道具は夫の家（「婆家」）での花嫁の将来の地位とも関係がある。その他、結納品と嫁入り道具の中に現金があり、結納品の総額は嫁入り道具

40 中国のチャットソフトである。

の総額より高いということもある。

宴会形式で結婚を祝うことは一般的な現象である。土家族の農村地域の宴会はほぼ家の庭で行い、裕福な家はホテル（「飯店」）で行う。もらった結婚祝いは、礼金のほうが多く、礼品はわずかである。花嫁の親戚は布団セットを礼品としてあげる。礼金のお返しは、「喜飴（お菓子）」が多く、「紅包（現金）」や煙草の場合もある。また、土家族の場合、「婚姻届の提出」は「結婚」の象徴ではなく、むしろ、宴会の形で人々に婚姻関係を表している。

現在の唐崖寺村では、2015年8月に世界文化遺産に登録されて以降、その保護政策と地域の観光開発により多くの変化が見られる。例えば、村人の多くが都市部へ出稼ぎに行くか、村で観光関係の仕事をするようになったり、国家から多額の土地の賠償金が入ったことや、移転により伝統的な一軒家から団地での生活に変わったことが、事例6)の陳さんのように彼らの婚姻習俗にも変容をもたらした。その中で、よく見られるのは、結婚式の宴会場が、かつての伝統住宅の庭から現在の、団地の共用スペースに変わったり、婚資が増え、同じ地域でも移転がなかった他の村の婚資よりも高いこと、さらに、村の若者が出稼ぎをやめて村へ戻って仕事をする傾向が強くなり、結婚相手の選択も同じ村や隣村の人になっていることなどである。

土家族は、長期にわたる漢族との接触で大きな影響を受け、多くの習俗が漢族と近似していったので、外見から漢族との違いを見出すのは難しく[山路2002:45]、なかでも「改土帰流」以降から、漢族の文化の影響を受け、土家族の従来の婚姻習俗がだんだんなくなっている一方、漢族の婚姻習俗や新たな婚姻習俗が生じた。例えば、「改土帰流」以降、土家族は従来の婚姻自由（自由恋愛、自主結婚など）から漢族の親決まりの結婚などの婚姻習俗になっているので、「哭嫁」の習俗が生じた。また、漢族の「同姓不婚」の習俗があるが、土家族には「特定の姓の間の通婚が禁止」などのように、漢族の婚姻習俗に基づいて新たな婚姻習俗が生まれている。

しかしながら、漢族文化を広範囲に受容したとはいえ、漢族との出会いのなかで、各地の土家族はこうした漢族文化を一様に受け止めたのではない[山路2003:46]。地域によって、土家族が漢族文化からの受けた影響の度合いに違いが見られる。例えば、筆者が2015年8月に唐崖寺村で調査行った時に、隣村の五龍坪村の村民の宋さん（男性、50歳、土家族出身）との話から、彼の妻は彼の母のイトコの娘ということを知り、彼の婚姻がかつて土家族の婚姻習俗の「骨種婚」、即ち父方交叉イトコ婚であることがわかった。この事例から、現在でも土家族地域には辺鄙な所に、古い時代の土家族の婚姻習俗が少し残留していることが明らかになった。

また、中国建国以降、中国は、一連の政策実施によって、封建主義的社会から社会主義的社会になり、中国全土で従来の封建経済制度から社会主義経済制度に転換した。その上、建国以降、新しい婚姻法律の実施が、土家族の婚姻習俗の変容の重要な要因と考えられる。

湖北省の土家族は省内西南方面の恩施州山間部に住んでいて、ここは、湖南省、重慶市、貴州省と接する境として、地域間の経済および文化の交流が盛んであることから、湖北省土家族の婚姻習俗は、他地域の土家族の婚姻習俗の影響を強く受けていることがわかる。例えば、かつて湖北省土家族の婚姻習俗に流行った「哭嫁」や豚肉を婚資や贈り物として利用するなど習俗が湖南省、重慶市、貴州省の土家族の結婚習俗にも多く見られたが「哭嫁」の習俗については現在ほとんど見られない。一方、中国のことわざに「十里不同風、百里不同俗（同じ地域でも、距離によって、習俗の相違ある）」とあるように、土家族でも分布地域によって文化習

俗の差がみられる。例えば、「女兒会」や、「無媒不成婚」は今でも重要な婚姻習俗として湖北省恩施の人々が従っている。

## V. おわりに

本稿では、現地での調査資料をもとに、唐崖寺村の恋愛段階から結婚式までのプロセスを具体的に記述した。建国初期と現在の結婚の流れを比べてみると、大筋ではあまり変化がないことがわかる。しかしそれでも、湖北省土家族の婚姻習俗の変容とその原因として以下の点が挙げられる。

(1) 建国以降から「文化大革命」までの間は婚資が少なかった。その時期は、中国全体の経済発展の程度が低いため、人々の収入が少なく生活水準が低かった。また、その時期、国家は節約などを提唱したので、婚資が多い場合には社会から浪費とみなされたが、その後の「改革開放」以降になると、経済の発展によって人々の収入が増加したため婚資が次第に増えた。また、他の人に自分の社会地位と財産を顯示する傾向も共通の現象になっている。

(2) 建国以降から「文化大革命」までの結婚式の儀礼は複雑であったが、その後の「改革開放」までの結婚式の儀礼は極めて簡略化し、さらに「改革開放」以降になると、結婚式の儀礼が再び煩瑣になる傾向が強くなっている。建国初期は、それ以前の民国期または清朝時代の文化習俗がまだ多く残存している上に、中央政府の所在地から遠く離れた土家族に対しては、統治が完全ではなかったからであろう。「文化大革命」期に、国家は文化の大改革を全国規模で展開し、土家族のような少数民族の文化習俗は「四旧」として修正また廃止になった部分が多かった。それに、当時の社会経済的状況がよくなかったため、多くの人は衣食（温飽）を追求したことや、さらに全国規模で節約を励行し、社会主義社会の発展をうたったので、婚姻習俗や儀礼も簡略化されていった。「改革開放」の時代になると、政治的環境が緩和され、経済も発展し、少数民族の文化習俗が認可されるようになると、土家族の婚姻習俗も復活していった。

しかしながら、土家族の婚姻習俗が伝承しているところも多く、これらの伝承が持続する要因もいくらか考えられる。

(1) 親戚または村人の協力である。どの時代の結婚式を見ても、お互いに手伝う人間関係が今でも持続していると考えられる。また、土家族の結婚式は、親戚や村人の感情の交流の場であり、村の重要な社交活動である。「文化大革命」期においてさえも、結婚に関する儀礼や習俗があまりなかったものの、親戚や村人は仲人として結婚には重要な役割を演じた。

(2) 通婚範囲がそのままであり、現在でも同じ村または隣村、隣郷の者同士の結婚が多いことである。しかし、今後は、若者の出稼ぎと地域社会経済発展や都市化の進展につれて状況が大きく変容していくことになるだろう。

以上のように、土家族の婚姻習俗が社会の進展と伴に変容しているなかで、変わらない人間関係や社会関係と伝統の持続も見られる。また、農業を主たる生業とする湖北省土家族にとって、婚姻は家族にとって、今日でも労働力の獲得、家族人口の増加、子孫繁栄の重要な手段である。

本稿はあくまで土家族の婚姻習俗の実態及び変容について研究したもので、土家族の婚姻習



俗のような重要な少数民族文化とその観光資源としての活用に関しては、世界文化遺産登録の影響も合わせて、今後さらに調査研究を継続していく必要がある。

## 参考文献

日本語

伊藤清司

1993『中国少数民族の信仰と習俗・下巻』第一書房

彭官章

1996「土家族『中国少数民族の婚姻と家族・上巻』第一書房

兼城糸絵

2009「婚姻儀礼と社会変化——中国福建省福州市の調査ノートより——」『沖縄民俗研究』  
27, pp.69-95

岸本美緒

2007『中国社会の歴史的展開』放送大学教育振興会

比較家族史学会編

1996『事典・家族』弘文堂, p.343

山路勝彦

2002「土家族とは誰か：中国の少数民族の創出と再編」『関西学院大学社会学部紀要』92,  
pp.41-53

2003「死者の愉悦：土家族の葬送儀礼」『関西学院大学社会学部紀要』95, pp.45-70

中国語

尹旦萍

2012「宗族与性別：土家族招婿婚の変遷邏輯—湖北恩施州A村為例」『雲南民族大学学報（哲学社学科学版）』2, pp.70-76

2015「社会轉型期土家族女性婚姻自主權的變遷—湖北恩施州宣恩県J村為例」『北方民族大学学報（哲学社学科学版）』1, pp.77-83

冉競華

2014「土家族婚俗文化調查」『尋根』4, pp.110-113

蘇冰・魏林

1995『中国婚姻史』文津出版

柏貴喜

2005「当代土家族婚姻の變遷」『貴州民族研究』2, pp.88-94

彭林緒

2001「土家族婚姻習俗的變容」『湖北民族学院学報（哲学社会科学版）』2, pp.38-46

劉孝瑜

1982「古代鄂西土家族与漢族的關係述略」『中南民族学院学報』1, pp.21-29

1986「土家族婚俗初探」『中南民族学院学報（社会科学版）』1, pp.79-84

参考ホームページ

中国国家统计局のホームページ： <http://www.stats.gov.cn/tjsj/pcsj/>

湖北省政府のホームページ： <http://www.hubei.gov.cn>

地図： [www.baidu.com](http://www.baidu.com)

原稿受領日：平成28年 8 月31日；Received 31 August 2016

掲載受理日：平成28年12月 7 日；Accepted 7 December 2016